神奈川新聞
THE KANAGAWA
2020年［令和2年］
8月6日［木］
仏滅
©神奈川新聞社 28005号
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23
総合受付 045-227-1111［1カ月3189円・1部130円］

郵便局 手作り防護服

横浜で有志ら参加、医療施設に配布

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で医療用防護服が不足する中、横浜市内の郵便局の職員有志が、ポリ袋を使って簡易防護服を手作りしている。既に約200着が完成し、必要とする医療施設に配布する。（沢村 成美）

東京都内に住む会社員ら3人が立ち上げた任意団体「防護服支援プロジェクト」の活動の一環。横浜入江郵便局（横浜市神奈川区）の加藤美幸局長が会員制交流サイト（SNS）で活動を知り、参加したことがきっかけとなった。日本郵便横浜東部地区連絡会を通じて所属する126局に参加を呼び掛け、職員ら約180人が手を挙げた。

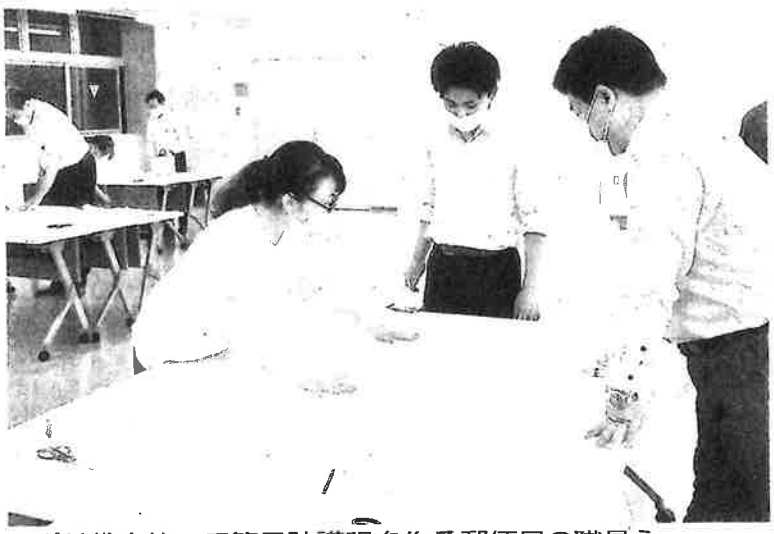
医師の指導を受けた同プロジェクトのメンバーから作り方を教わり、7月27日から都筑郵便局や横浜中央郵便局で作業を続ける。ポリ袋2枚を養生テープで貼り合わせた簡易防護服は、腰ひもを結んで上半身から膝下まで覆えるように作られている。加藤局長は「郵便局の仕事の原点は地域貢献。組織力を生かし、少しでも協力したい」と話す。

「仕事の原点は地域貢献」

同プロジェクトによると、1日で数百着の防護服を使用する病院もあり、簡易防護服の需要もあるという。これまでに首都圏の医療施設に問い合わせた上で、要望があった約60施設に計約3万2千着を届けた。現在は感染が再び拡大しており、要望が増えているという。

同プロジェクト共同代表の薗部喜史さん(58)は「現場の負担や不安を少しでも減らしたい」と話し、参加を呼び掛けている。

同プロジェクトは、材料費の寄付も募っている。振り込み先は公式ホームページ（https://bougofukushien.com）に記載。問い合わせは、メールで(bougofukushien@gmail.com)。



ポリ袋を使って簡易防護服を作る郵便局の職員ら
＝横浜市都筑区